

諸外国の高等教育の質保証にかかる動向について

－ 多様化する高等教育と質保証のアプローチ －



公益財団法人 日本高等教育評価機構 創立10周年記念シンポジウム

平成27年2月25日 アルカディア市ヶ谷(東京)

大学評価・学位授与機構
評価事業部国際課長 秦 絵里

本日の話題

1. 質保証を取り巻く環境
2. 質保証制度の多様性
3. 諸外国の質保証制度:最近の傾向
4. 質保証分野における挑戦 — 評価手法の世界的課題 —
 - ・リスクベース評価
 - ・国際化評価、英語教育課程等の評価、留学生受入評価
 - ・クロスボーダー教育の質保証
 - ・学習成果／学修成果
 - ・内部質保証
5. 最後に

質保証制度を取り巻く環境は複雑

影響要因

- 政治的視点
- 社会的視点
- 経済的視点
- グローバルな視点

関係者（期待を抱く関係者）

- 学生
- 雇用主
- 大学等機関
（高等教育提供者）
- 支援者・政策担当者

“質保証”制度は、多様である

- 教育制度は国によって異なる
- “質保証”の考え方は同じようであって、同じとは限らない
- 高等教育の成り立ち、質保証制度の成り立ちは異なる
- 評価基準や評価の制度は誰が所有(決定)しているのか



「質／QUALITY」 — 多様な視点・傾向

質の考え方	説明
「卓越性」としての質 Quality as exceptional	質に関する伝統的な考え方 卓越性(高い水準を超えている) 水準の確認
「完全」あるいは「一貫性」としての質 Quality as perfection or consistency	欠陥ゼロ 質の文化
「目的適合性」としての質 Quality as fitness for purpose	目的適合性1:顧客の要望 条件の充足 目的適合性2:使命 質の保証 顧客満足
「投資に見合う価値」としての質 Quality as value for money	業績指標 顧客検証
「変換」としての質 Quality as transformation	参加者の成長 付加価値 参加者の自律性向上

参考: 日本私立大学協会附置私学高等教育研究所監修「大学改革を成功に導くキーワード30」(学事出版、2013)
(原典)Harvey, Lee and Peter T. Night, Transforming Higher Education, Open University Press, 1996, p.vii.

高等教育の「質保証」

QUALITY ASSURANCE」とは

日本:

「大学教育において保証されるべき**質**の対象には、
学生、教育課程の内容・水準、教員、研究者、
教育・研究環境の整備状況、管理運営方式など、
様々な要素がある。

その上で、最終的に保証されるべきは、
学生の学びの**質**と水準である。」

「中長期的な大学教育の在り方に関する第一次報告
—大学教育の構造転換に向けて—」
(平成21年6月15日 中教審大学分科会)

高等教育の「質保証」

QUALITY ASSURANCE」とは

日本:

「その保証は、それぞれの大学が責任を持つことが大前提である。学生の質は社会が評価するものであり、その評価を大学が直接コントロールすることはできない。大学ができるのは、学生の質を保証するための体系を適切に整えること、そして、その質が常に向上するような工夫改善を可能とする仕組みを機能させることである。」

「中長期的な大学教育の在り方に関する第一次報告

—大学教育の構造転換に向けて—」

(平成21年6月15日 中教審大学分科会)

日本の高等教育の認証評価制度の特徴

- 評価の単位：機関別評価
- 評価対象：教育研究 ※教育重視
- 評価の主な対象：大学で推進されている諸活動
(=教育研究に関連した諸活動)の特色や個性の現状を分析。
教育研究の質は、それらの成果を分析することによって評価。
- 透明性の確保：報告書の公表

諸外国の評価制度 — 制度の多様性

■ 評価の単位：

機関別 / プログラム別
/ 分野別評価、混合型

評価の単位	国(例)
プログラム別評価	豪州、マレーシア、タイ、 ニュージーランド、米国
分野別評価	スペイン
機関別評価	英国、中国、日本、韓国、 米国
混合型 <small>※1機関がプログラム評価や機 関別評価の手法を併用</small>	フランス、ドイツ、オランダ

■ 評価対象：

教育 vs 教育研究

■ 質保証の対象：

学位(学術水準) vs 大学で推進されている諸活動

■ 透明性の確保：報告書の公表 vs 非公表

制度は多様!

諸外国の質保証制度における最近の傾向(1)

■ 制度的変化

- 質保証のプロセスではなく内容の重視(成果主義)
- プログラム評価から機関別・混合型評価へ(例:オランダ、ドイツ、スペイン)
- 自己認証制度(例:豪州、マレーシア、台湾)
- 評価の義務化(例:豪州、サウジアラビア)
- 政府の管理統制強化(例:アジア諸国、豪州、米・英・仏?)
- 中央集権型と非中央集権型の評価制度
- 質保証機関の統合(例:オーストリア、アイルランド、香港?)

諸外国の評価制度（例）

3. 諸外国の質保証制度：最近の傾向

■ プログラム評価の例：

豪州「高等教育基準枠組（最低基準）」：2011年版

機関登録基準	1. 機関の設置状況
	2. 財務の状況や持続可能性
	3. 法人・教学ガバナンス
	4. 教育研究にかかる質や健全性の卓越
	5. マネジメントや人材
	6. 学生への責務
	7. 資源や施設の整備状況

機関種別基準	1. 「高等教育機関 (Higher Education Provider)」
	2. 「大学 (Australian University)」
	3. 「ユニバーシティ・カレッジ (Australian University College)」
	4. 「専門大学 (Australian University of Specialization)」
	5. 「海外大学 (Overseas University)」
	6. 「海外専門大学 (Overseas University of Specialization)」

コースアクレディテーション基準	1. コースデザインが適切で「資格基準」を満たしている
	2. コース資源や情報が十分である
	3. 入学基準が適切である
	4. 教育・学習の質が高い
	5. アセスメントが効果的に行われており、学生に期待される学習成果が達成されている
	6. コースモニタリング、レビュー、改善、廃止が適切な方法で行われている

資格基準	1. 適切な基準を満たした高等教育学位を提供している
	2. 証明書が正確で、不正利用に対する保護対策を行っている
	3. アーティキュレーションや既習歴経験の認定、単位の調整 (credit arrangement) が適切な基準項目を満たしている

諸外国の評価制度 (例)

■ プログラム評価の例:

AUN(ASEAN大学連合)プログラムアセスメント

AUNプログラムアセスメントにおける15基準

1. 期待する学習成果	9. 学生に対する助言・支援
2. プログラム詳細の書面化	10. 施設・設備
3. プログラムの構成・内容	11. 教授・学習プロセスの質保証
4. 教授・学習についての戦略	12. SD活動
5. 学生に対する成績評価	13. ステークホルダーからのフィードバック
6. 教員の質	14. 卒業生の質・学習成果の到達状況
7. 支援スタッフの質	15. ステークホルダーの満足度
8. 学生の質	

諸外国の評価制度（例）

3. 諸外国の質保証制度：最近の傾向

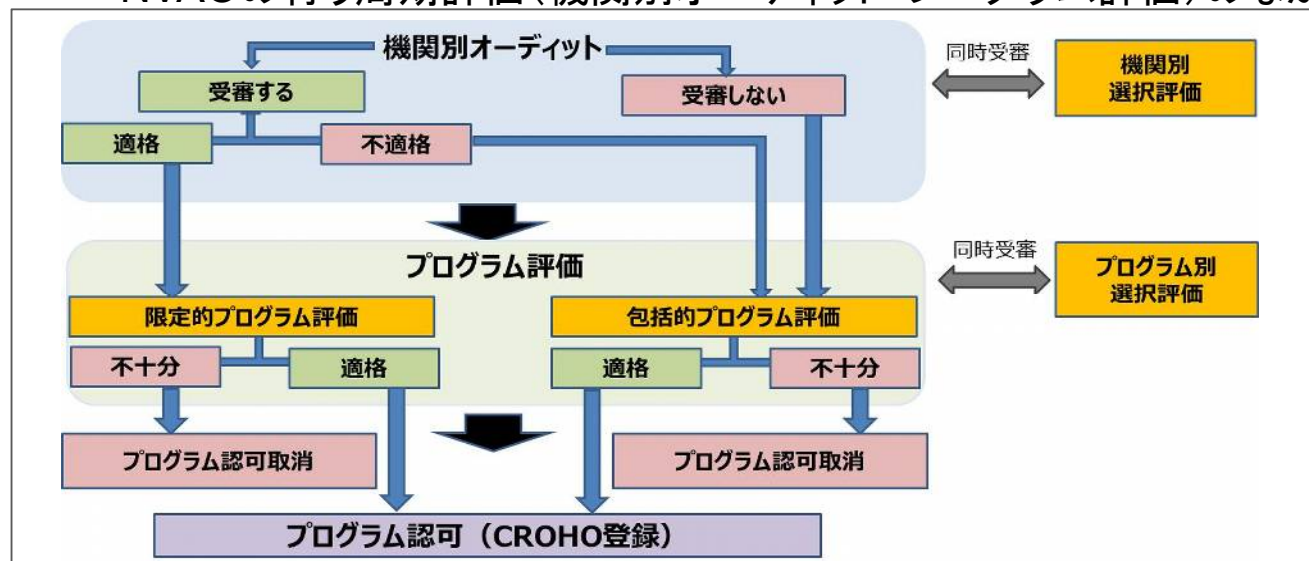
■ 混合型（プログラム別評価・機関別評価）の例：

オランダ及びベルギー・フランダース地方（**NVAO**）：第2サイクル評価制度

第2サイクル評価種類（2011～2016年度）

- 機関別オーデイト【→ 新規導入】
- プログラム評価【→ 手法の変更】
 - 初期アクレディテーション（限定的プログラム評価）
 - 初期アクレディテーション（包括的プログラム評価）
 - 限定的プログラム評価
 - 包括的プログラム評価
- 優れた質的特徴に関する選択評価【→ 新規導入】

NVAOの行う周期評価（機関別オーデイト・プログラム評価）のながれ



諸外国の評価制度（例）

3. 諸外国の質保証制度：最近の傾向

■ 混合型（プログラム別評価・機関別評価）の例：

オランダ及びベルギー・フランダース地方（**NVAO**）：第2サイクル評価基準

包括的プログラム評価

領域	基準
1.身に付けることが期待される学習成果	1) 教育プログラムにおいて学生が身に付けることが期待される学習成果の内容・水準・方向性を具体的に示し、国際的な要件にも合致していること
2.カリキュラム	2) カリキュラムの指向性が、科学研究・専門的実務上の能力の開発を保証するものであること 3) カリキュラム内容が、学習成果の達成を可能にするものになっていること 4) カリキュラム構造が、学習を奨励し、学習成果の達成を可能とするものになっていること 5) カリキュラムが、入学学生の資質に即していること
3.教職員	6) カリキュラム内容、教育的専門性、および組織体制の観点で、カリキュラムの実施に適任の教職員が配置され、また十分な規模となっていること。
4.学生支援と施設整備	7) 学生の宿舎、施設整備が、カリキュラムを実施する上で十分であること 8) 学習指導、学生への情報提供が、学業を進展させ、また学生の要望に基づいたものとなっていること
5.質保証	9) 教育プログラムが、測定可能な目標を取り入れながら、定期的に評価を受けていること 10) これらの評価による成果が、目標の達成に資する具体的な改善措置のための基礎となっていること 11) 教育プログラムの各種委員会、試験管理委員会、教職員、学生、卒業生、関連専門分野の関係者が、内部質保証の取組みに積極的に参画していること
6.学習成果の評価	12) 教育プログラムが、学習成果を測るための十分なシステムを適切に配置していること
7.達成された学習成果	13) 教育プログラムにおいて実際に学習成果が達成されていること

諸外国の評価制度（例）

3. 諸外国の質保証制度：最近の傾向

■ 混合型（プログラム別評価・機関別評価）の例：

オランダ及びベルギー・フランダース地方（**NVAO**）：第2サイクル評価基準の構造

機関別オーディット	
1.教育の質についてのビジョン	広く支持された、教育の質及び質文化の発展のためのビジョンを有していること
2.ビジョンの実現のための方針	教育の質にかかるビジョンの実現のための適切な方針を定めていること。方針には、少なくとも、教育や教職員、障がいを持つ学生への配慮、研究に基づいた教育に研究がつながり、教育と(国際的な)職業領域や学問分野の相互関係に関する事項を含むこと
3.ビジョンの達成状況	教育の質にかかるビジョンの達成状況について深く観察していること。学生や教職員、卒業生、各職業団体からの意見を募り、教育プログラムの質を定期的に測定・評価していること
4.改善のための方針	必要が生じた場合に、教育プログラムの質について組織的に改善を図っていること
5.組織及び意思決定の構造	教育プログラムの質に関して、職責や権限を明確に定めるとともに、学生と教職員の参画を得て、効果的な組織・意思決定構造を有していること。



適格と判断された場合

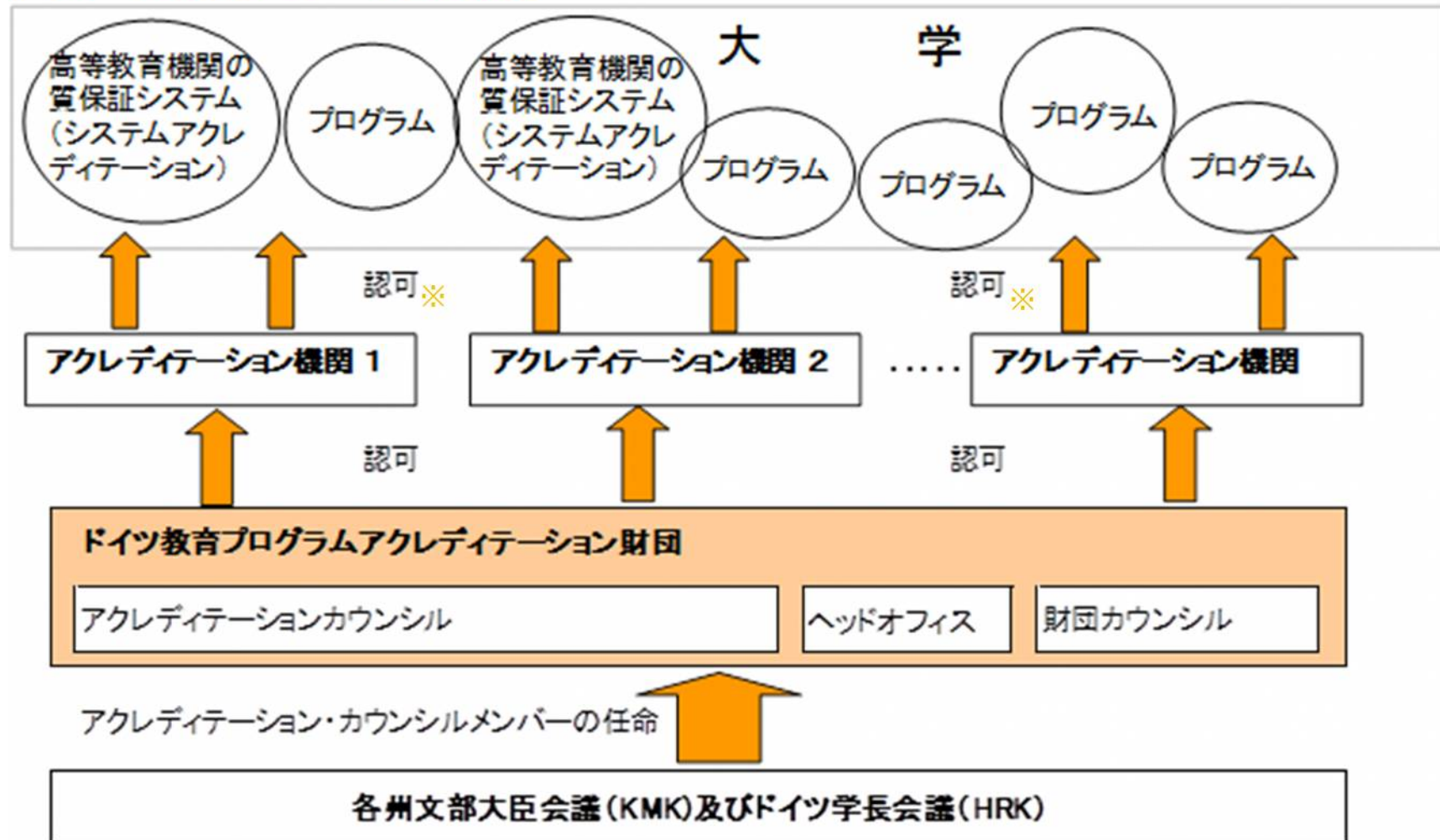
限定的プログラム評価	
1.身に付けることが期待される学習成果	1)教育プログラムにおいて学生が身に付けることが期待される学習成果の内容・水準・方向性を具体的に示し、国際的な要件にも合致していること
2.教育と学習の環境	2)カリキュラム、教職員、教育プログラムに特有の支援、および施設整備が、学習成果の達成を可能にするものであること
3.評価(アセスメント)	3)教育プログラムが、学習成果を測るための十分なシステムを適切に配置していること
4.達成された学習成果	4)教育プログラムにおいて、実際に学習成果が達成されていること

諸外国の評価制度（例）

3. 諸外国の質保証制度：最近の傾向

■ 混合型（プログラム別評価・機関別評価）の例：

ドイツ アクレディテーション制度



※アクセディテーション・カウンシル名の「クオリティ・シール」(認定証)が大学/プログラム側に渡る。

諸外国の評価制度（例）

■ 混合型(プログラム別評価・機関別評価)の例:

ドイツ アク্রেディテーション制度

	プログラム アクレディテーション	システム アクレディテーション	評価(evaluation) (evalag)	オーディット (evalag)
目的	プログラムの状況の 最低水準の保証	質保証システムの健 全さのassessment	assessment 推薦事項	現状評価 assessment 推薦事項
焦点	プログラム	高等教育機関の質保 証システム	様々な焦点	高等教育機関の質保 証システム
法的性質	全ての学習プログラ ムの必要要件	プログラムアクレディ テーションにかわるも の	自発的 (バーデン・ヴュルテ ンベルク州では法律 で定められている)	自発的
法的結果	教育プログラムの 認可の前提 (州によって)	高等教育機関の 認可の前提 (州によって)	州からの財源配分の 参考となる (州によって)	なし

- ・システムアクレディテーションは機関の内部質保証システムをチェック。
- ・評価は、高等教育機関の強みと弱みを分析し、改善点等について推薦事項を作成する。
また大学の希望に応じて運営管理面も見る。

諸外国の質保証制度における最近の傾向(2)

■ キーワード

- ・ リスク
- ・ 指標
- ・ 機能別分化
- ・ 内部質保証
- ・ 資格枠組み・資格プロフィール
- ・ クロスボーダー教育 (トランスナショナル教育)
- ・ affordability / rating / 学修成果
- ・ MOOCs / OCWの質保証

本日の話題

1. 質保証を取り巻く環境
2. 質保証制度の多様性
3. 諸外国の質保証制度:最近の傾向
4. 質保証分野における挑戦 — 評価手法の世界的課題 —
 - ・リスクベース評価
 - ・国際化評価、英語教育課程等の評価、留学生受入評価
 - ・クロスボーダー教育の質保証
 - ・学習成果／学修成果
 - ・内部質保証

リスクベース評価

リスクベース評価

■ 豪州・TEQSA ※2012年より適用

- リスクアセスメント枠組では、起こりうるリスクをあらかじめ議論したうえで、定期的に大学は業務を自己点検。
- 評価機関は、年間通じてその状況をモニターし、査定する際には、各教育機関の背景・特徴に着目し、十分配慮しながら判断を下す。

■ 英国・QAA ※2014年より適用

- 個別の高等教育機関の状況に適したレビューの実施。
- リスクが高い高等教育プロバイダーには、評価のサイクルを短く設定(4年)する。一方、過去の評価結果において2回以上問題のない機関の評価サイクルは6年。

リスクベース評価の例

■ 豪州・TEQSA 4つのリスク領域

学生の学習量、
経験、学修成果

教員の
プロフィール

財政の実現性、
持続可能性

規制(質保証)
の履歴

全体的評価

学生に対する
リスク

財政的
リスク

リスク評価： 3段階・定性的評価

「リスク高」、「リスク中」、「リスク低」

リスクアセスメントによる措置：

「措置なし」、「勧告」、「公式な情報要求」、

「公式な規制・監督措置」、

「予定されている規制レビューでの考慮」

リスクベース評価の例

■ 豪州・TEQSA: 12のリスク指標

学生の状況・成果関連のリスク指標	リスク内容
1. 学年の完結度 (Cohorts completed)	ターゲットとした学生、財政上の目標、施設や人的リソースが学生増に見合っているか、ガバナンス成熟度などが、計画どおり行われているか。
2. 学生数(Student load)	大幅な学生増は、あらかじめ計画されて適切なインフラ整備などの予定がない限り、学生経験の質に影響を与える。戦略計画や学生支援にかかる能力などについて確認。
3. 学生の退学率(Attrition rate)	高い退学率、低い進学率、卒業率の低下等は、入学プロセスの質、教育・学修プロセスの質や、学習経験全般の質に問題がある可能性がある。退学率、進学率といった情報のほか、学生満足度、学生の学習支援などの実態を確認。
4. 学生の習熟度(Progress rate)	上述3のとおり
5. 卒業数(学部生、大学院コース 課程・研究課程など場合に依りて) (Completions as applicable)	上述3のとおり
6. 学生満足度 (Students Satisfaction)	学内横断的に、卒業生の低い満足度は、学生経験を反映するもので、コースの質が問題となりうる。教員や支援のレベル、教育の質、適切な学修リソースなどを確認。満足度が低い場合は、将来的に市場の需要に影響を与える。教員の指標、満足度調査の回答率なども考慮に入れる。
7. 卒業後の進路 (Graduate destinations)	低い就職率や進学率が低い場合は、社会への接続等に必要な卒業生としての特性を獲得できていない可能性がある。学問分野やプログラムのミッション、場所、調査サンプルの規模・回答率なども考慮に入れる。

リスクベース評価の例

■ 豪州・TEQSA: 12のリスク指標

人的リソースとプロフィールのリスク指標	リスク内容
8. 教員系幹部 (Senior academic leaders)	教員系の幹部数が低い場合は、組織の教育能力の強みの障壁となっている可能性がある。教育ポリシーづくりや、質の内部評価、教職員の監督、プロフェッショナル・リーダーシップにおいては、教員系幹部は大いに貢献できる。
9. 学生と教職員の割合 (Students to staff ratio (SSR))	学生比率が高い場合、学生に対する支援レベル及び学習経験の質、平均的な教育業務負担に対して制約が生じる。ここでは、クラスの規模については扱わない。
10. 非常勤教員 (Academic staff on casual work contracts)	非常勤教員が、学内の教学リソースや教員研修などにアクセスできるようにすることが重要。これらの教員に対して、適切な支援ができていない場合、学生支援の質にリスクを及ぼす可能性がある。
財政状況・持続可能性のリスク指標	リスク内容
11. 財政実現性 (financial viability)	利益、流動性資産、出資資本と買入れ資本の比率、負債、現金流出入量の状態
12. 財政的持続可能性 (Financial sustainability)	歳入の変化率、資産の変化、雇用者の年金・保険等の給付金の割合変化、学生受入れにかかる歳入のうち、集中する収入部分の変化の状態などを3年ごとで分析。

国際化評価、英語教育課程等
の評価、留学生受入評価

国際化評価、英語教育課程等の評価、留学生受入評価

■ 国際化の質保証:

- オランダ (NVAO): 優れた質的特徴に着目した選択評価(国際化評価) ※2011年から実施
- 欧州高等教育アクレディテーション協会 (ECA): 国際化サーティフィケート (CeQInt)
※2012年から試行
- 日本 (NIAD-UE): 選択評価C「教育の国際化の状況」※2014年から開始
- 台湾: 大専校院国際化品質認証制度 ※2014年から試行
(3年間の国際化質認証マークを付与。留学生向けポータルに特色掲載)

■ 英語等で教授するプログラム評価

- スペイン (AQA): 短期受入れ学生向けプログラム (Study Abroadプログラム) 評価
※2012年試行
- 台湾: 補助大専校院精進全英語學位學制班別計畫 ※2011年開始
(英語による学位プログラムへの財政補助のための審査制度)

■ 留学生受入れを可能にする適格認定

- 豪州: CRICOS
- 英国: Educational Oversight
- 韓国: 外国人留学生受入れ・管理力量認証制 (IEQAS) ※2012年開始

国際化評価の例

■ オランダNVAO: 国際化評価の例:

機関別国際化評価		プログラム別国際化評価	
	基準	基準	指標
1.国際化のビジョン	教育機関が国際化に関して明確かつ共有されたビジョンを有していること。ビジョンは、内外の利害関係者の支持を得ており、教育の質と関連づけられていること。	1.国際化のビジョン	a)ビジョンの共有 b)実証可能なビジョン c)質向上志向の評価
2.方針	機関の方針が、国際化のビジョンの実現を可能にするものとなっていること。方針には、少なくとも、「国際的・異文化的な学習成果」、「教育と学習」、「教職員」、「学生」に関する事項が含まれていること。	2.学習成果	a)学生が身に付けるべき学習成果 b)成績評価 c)卒業生の達成度
3.実現化	機関が、当該方針の実現の程度を実証することができること。	3.教育・学習	a)カリキュラム b)教授方法 c)学習環境
4.改善戦略	機関が、内部質保証システムにおいて、国際化の観点を取り扱っていること。	4.教職員	a)構成 b)国際経験・能力 c)教職員向けの支援
5.組織・意思決定の構造	機関が、組織及び意思決定の構造の中に、国際化の観点を効果的に取り込んでいること。	5.学生	a)構成 b)国際経験 c)サービス

留学生受入評価の例

■ 韓国:IEQASの例:

定量的評価	外国人専任教員の数と割合
	海外派遣学生の数と割合
	交換留学生の数と割合
	定員に対する外国人学生の数と割合
	外国人学生の中途退学率
	外国人学生の多様性
	外国人学生受入れによる財政健全性
	外国人学生への宿舎提供率

絶対評価	絶対評価指標	IEQAS基準
	中途退学率	6%未満
	不法滞在者率	1%未満
	外国人学生の多様性	90%未満
	財政健全性	90%以上
	医療保険加入率	80%以上
	新入生への宿舎提供率	25%以上
	語学力(TOPIK4級、英語)	30%以上

留学生受入評価の例

■ 韓国:IEQASの例:

基準	基準項目	自己評価項目	視点
	○留学生受け入れに関するビジョン、目的、戦略	1. グローバル化に関する大学のビジョンと特徴	1-1. グローバル化に関する理念 ・グローバル化と大学の発展との連携 ・外国人学生獲得戦略
			1-2. 大学の特徴性 ・主要ターゲット国または分野 ・多彩なグローバル化プログラム
	○学務管理	2.外国人学生の選抜	2-1. 学生の学力は検証
			2-2. 外国人学生定員充足のために効果的な学生選抜方法
			3.教学管理
○学習、生活面等への支援	4.外国人学生の管理・支援	3-1. 出席管理 ・外国人学生の出席簿の管理、外国人学生の出席率	
		3-2. 学業管理 ・外国人学生の成績分布表:外国人学生の学業成績と国内学生との比較 ※ランダム選択による実地調査の可能性有 ・シラバスや学事歴の整備	
	5.その他	4-1. 学習支援 ・外国人学生向けの学習支援プログラム、学習アドバイザー	
		4-2. 韓国滞在に関する支援とカウンセリングセンター	
		4-3. 外国人学生の卒業後の対応(就職支援)、教育サービスに対する満足度調査の実施	
		4-4. 順応支援プログラム	
		5.その他	大学独自の特記事項

出典: 大学評価・学位授与機構「ASEAN+3高等教育質保証フォーラム」(H25.10.1開催) Dr Innwoo Park発表資料
http://www.niad.ac.jp/n_kenkyukai/no13_aseanforum_park_jpn.pdf

クロスボーダー教育の質保証

—「国際的な共同教育プログラム」の質保証—

クロスボーダー教育の質保証

- 国際的な連携による高等教育の質保証にかかる提言等：
 - ✓ 国境を越えて提供される高等教育の質保証に関するガイドライン (UNESCO/OECD、2005)
 - ✓ 国境を越えた教育提供におけるグッド・プラクティス規約 (欧州評議会/UNESCO、2007)
 - ✓ 欧州共同修士プログラムの内部質保証に関するガイドライン (欧州大学協会、2006)
 - ✓ エラスムス・ムンドゥス質保証「卓越性ハンドブック」 (欧州委員会、2010)
 - ✓ 国際的な共同/複数学位の現状にかかる報告書(米国) (米国教育協議会、2014)

クロスボーダー教育の質保証

■ 質保証機関のプロジェクト等：

- ✓ **JOQAR**: 共同教育プログラムの質保証と学位の認証プロジェクト
(欧州高等教育アクレディテーション協会(ECA)、2010-2013)
 - 5つの質保証機関協働による単一のアクレディテーション手続きによる試行評価を実施
 - 「**共同学位授与における優良事例ガイドライン**」(ECA、2014)
- ✓ **MULTRA**: 共同教育プログラムに関するアクレディテーション結果の相互認証に関する多国間協定
(欧州高等教育アクレディテーション協会(ECA)、2010-)
 - 共同教育プログラムに対するアクレディテーション手続きの重複を避け、MULTRAに署名した質保証機関のアクレディテーションを受審すると、その審査結果を、他の(署名した)質保証機関が認証するため、評価の受審は1回で済む。
 - 11か国13の評価機関が署名
- ✓ **QACHE**: 国境を越えた高等教育の質保証プロジェクト
(ENQA、2013-2015)

クロスボーダー教育の質保証

■ 質保証機関のプロジェクト等：

✓ 「キャンパス・アジア」パイロット・プログラムの日中韓共同モニタリング
(中国HEEC、韓国KCUE、日本NIAD-UE、2011-2016)

• 日中韓の3質保証機関協働による、国際的な連携教育プログラムにおける教育の質モニタリングを実施

• 「質保証からみた
「キャンパス・アジア」優良事例集」
(NIAD-UE、2014)



http://www.niad.ac.jp/n_kokusai/campusasia/

學習成果/学修成果

諸外国の質保証機関における学習成果へのアプローチ

「学習成果」の定義と評価基準等

評価機関等	定義内容	評価基準等への反映
米国 (CHEA)	学生が一連の高等教育活動に取り組むことによって得た知識や技術や能力。組織やプログラムに参加した一般的な成果とは区別される。	地域別評価機関の基準に、設けられている。
英国 (QAA)	学習者が学修を終えた後に、修得、理解、または明示できると予想されるもの。	「意図された学習成果のアセスメント」という質規範を設けている
仏国 (AERES)	(なし) ※ 「学習成果」にあたるフランス語がない。プログラム・コース全体の目標の概念が相当すると考えられる。	フランス資格枠組みに言及した、学生に身に付けて欲しい能力を高等教育機関で設定する
蘭国 (NVAO)	・学習を通じて卒業時点の学生が身に付けるべき能力。 ・プログラムを通じて身に付けることができる能力。想定した学習成果に沿ったカリキュラムの内容によって達成される。 ・学習を通じて卒業辞典の学生が実際身に付けた能力。	基準にあり。各プログラムにおける学生の成績やパフォーマンスを適正に評価するシステムと、期待される学習成果が達成されたかを査定。
豪州 (TEQSA)	学習の結果として身に付き、実証できる知識や技能、その知識・技能の応用力を表すもの。	豪州資格枠組み(AQF)において、レベルごとに学習成果の程度を設定。
中国 (HEEC)	(不明)	本科教育において、機関別評価の基準で、学習成果に関連する観点を設定
マレーシア (MQA)	学生が学習を終了した時点で、知るべきこと、理解すべきこと、行うことができること。	マレーシア資格枠組み(MQF)の定義と連動。MQFにおいて重視する学習成果8領域を定めている

内部質保証

Internal QA

内部質保証の重視

■ 概念の推進と評価基準における重視

- 「欧州高等教育圏における質保証の基準とガイドライン(ESG)」

※2015年に第4版の刊行予定

http://www.niad.ac.jp/n_kokusai/qa/1258101_1542.html

- APQNにおける千葉原則
- AQANにおける質保証枠組み
- 日本: JIHEE, NIAD-UE, JUAA等における基準改定

■ 制度への反映

- ドイツ: システム・アクレディテーション制度

cf. 質保証・開発センターにおける内部アクレディテーション、他機関の評価実施

- ベトナム: 学内に評価センターを設置し、学内や他大学のレビューを実施。
- インドネシア: 学内に評価センターを設置し、学内でレビューを展開。

全国的レベルで、評価センター間の情報共有

千葉原則：質保証原則の枠組

4. 質保証分野における挑戦

A: 内部質保証

- 質保証の文化が形成・定義・支援・普及されている
- 質保証が機関全体の目的・目標の一部として定められている
- 内部の質管理に関するシステム・方針・手順が適切である
- 教育プログラムや学位授与の承認・監視・見直しが定期的に行われている
- 継続的な質の向上に関する戦略が策定・実施されている
- 教員の質が維持されている
- 機関情報や教育プログラム・学位・成果等の最新情報が適切に公開されている

B: 質の評価

- 機関別またはプログラム別の質保証活動が周期的に実施されている
- 評価基準の策定過程に利害関係者が関与している
- 評価基準が公開され、一貫性を保持している
- 評価者の利益相反が生じないよう公式手順が適切に定められている
- 以下の基本手順を含んでいる
 1. 自己評価
 2. 評価者による評価及び訪問調査
 3. 判定結果及び提言を示した報告書の公表
 4. 提言に基づく取組状況を評価するためのフォローアップ
- 意見申立てが可能である
- 上記の内容は、機関別、プログラム別またはこれらの複合型の形態に適用できる

C: 質保証機関

- 独立性・自立性を保持し、評価結果が第三者の影響を受けない
- 理念・目的・目標が明文化されている
- 人材・財源が十分である
- 評価の方針・手順・報告書がすべて公表されている
- 評価の基準・方法・プロセス・判定基準・意見申立手順が明文化されている
- 活動内容やその効果等について定期的な検証が実施されている
- 海外の質保証機関等との連携協力が図られている
- 研究活動が実施され、情報提供や助言が行われている
- 上記の内容は、アクレディテーション、オーディット等の多様な評価に適用できる

最後に ーまとめー

Reflection of Today

大学における質保証活動

質保証活動のポイント

- ◆ 学生の学びの質と水準を保証する
- ◆ 質が常に向上するような工夫改善を可能とする仕組みを機能させる

認証評価の制度はあるが……

制度上、基準を満たすための必要な手順や活動はあるが……

質を保証する手法・アプローチは、ひとつではない

個別の大学にあった、手法の開発が望まれる

認証評価機関としても・・・

One size doesn't fit all

Fit for purpose

ご清聴ありがとうございました。

連絡先：
大学評価・学位授与機構
評価事業部国際課
dir-intl@niad.ac.jp

参考文献

大学評価・学位授与機構 「国際連携・調査事業」ウェブページ 大学質保証の世界の動向を発信しています



※Mapが表示されない場合は、以下「各国・地域の情報発信」から各国・地域ページにお進みください

諸外国における質保証の
動向記事の掲載
www.niad.ac.jp/n_kokusai/index.html




「共同教育プログラムのための
質保証」に関する情報サイト
<http://qa4jp.niad.ac.jp/>

参考文献:刊行物

インフォメーション・パッケージ

独立行政法人
大学評価・学位授与機構

- 国内外の高等教育の質保証に関する相互理解を深化
- 公的機関との連携協力による情報提供



日本の高等教育に関する 質保証関係用語集

日本の高等教育制度、質保証制度及び当機構の評価制度に関する用語の定義・解説を日英2カ国語で収録

海外大学との交流に必須のアイテムです。

高等教育分野における質保証システムの概要

日本及び諸外国の高等教育制度及び質保証制度の基本的な情報を日英2カ国語で集約



※1 韓国大学教育協議会 (KCUE) による 英文版をもとに、当機構が日本語を作成

※2 中国教育部高等教育教學評価センター (HEEC) による中国語刊行物等を参考に、当機構が概要資料を作成

アジア地域の高等教育質保証 (日本語)

アジア地域に関し、簡単に高等教育質保証についてまとめた資料です。

• 質保証・評価システム一覧



• プリーフィング資料

Malaysia

Indonesia

台湾



上記刊行物等は、下記「国際連携」ウェブサイトからダウンロードできます。

http://www.niad.ac.jp/n_kokusai/